

# 洞春寺とうしゅん

毛利元就公の菩提寺である。元就公は安芸郡山城いんぎゆうやましろにおいて七十五歳で没し、墓は郡山ぐんやまにあり菩提寺も近くに建立された。しかし毛利氏の防長移封により萩城内に、さらに山口に移された。元就公が生前、敵味方の戦死者の供養のために行っていたという。法華経千部会は現在も寺で行われていて、公の志を今に伝えている。寺宝として元就公画像の外、多くの文書、絵画が蔵されている。

重要文化財

# 洞春寺観音堂

大正六年八月一三日国指定

この観音堂は永享二年(一四三〇)大内持盛を開基とする滝の観音寺の仏殿として創建されたものであるが大正四年にこの洞春寺の境内に移されたものである。

桁行三間、梁間三間、一重もこし付き、入母屋造り、こけら葺(昭和二五年の解体修理の際、銅板葺に変更)の唐様の建物で、正面に棧唐戸左右に花頭窓があり、外部下層の檼のない化粧板軒は、全国的にも例が少なく珍しいものである。上層の化粧軒は大疎種であるがこれは下層の板軒に対し、上を軽く見せる工夫である。内部の構造は簡素であるが、細部の斗拱や絵様などに見るべきものがある。床は唐様の四半敷瓦である。岩屋造り厨子は当時のままのもので、本尊は聖観音菩薩である。